



田村正幸

質問

厳しい財政状況の中で、自立の町を目指していくためには、町民の理解と協力が必要です。又、町民の意向と乖離した中で町政運営が行われてはならないと考えます。広く町民の声を町政に反映させるといふ観点から、町内数箇所には町民の声ポスト設置の考えはないか。又、町政参加促進のために、町民との意見交換の場の充実が謳われているが具体的な方策について伺います。

町長答弁

行政運営は一方通行ではなく、町民の真意を充分くみ上げた、評価の高い結果が生み出せる工夫と才覚が必要です。町民の声をよく聞いて、町民参加の協働の

町民の声ポストについて

町づくりを進めます。

町民の声ポストの設置については、早い段階で実現できるように、設置の場所、回収の方法、回答の公表等について研究検討してまいります。町民との意見交換の場についても検討してまいります。

自閉症などしつうがいを持つ子どもたちの学校教育について

質問

湯沢町にも自閉症などのしつうがいを持つ子どもたちがいます。子どもは親にとって宝であり大事です。健常者の子どもを持つ親がそうであるように、しつうがいを持つ子どもとの親も又、将来子どもを自立を願っています。そのために、今出来る最高の教育環境をその

子のために作ってやりたいと考えています。そこで以下について伺います。

湯沢小学校区以外のしつうがいを持つ子どもたちは学区外通学の申請書を出しているが、湯沢町1学区の取り扱いが適当で廃止の考えはないか。又、このことから4km超のバス通学についてもお聞きします。

町外への通学助成と学童保育について、特別支援学級の今後の取り組みについてもお聞きします。

町長答弁

現在教育委員会で内規を検討中ですが、特別支援学級の子どもたちには、同一校では入学時に学区外通学の申請書を一度提出すればよい方向で検討中です。湯沢小学校にしか特別支援教室がないことから、保護者

の負担軽減を考え、通学補助等について町財政と相談してさらに検討してまいります。町外通学について県は一定の基準で助成してまいります。町は、今後検討してまいります。支援学級の今後については、校長先生の退任や担任の先生の移動から、県に対して力のある先生に来ていただくようにお願いしています。支援学級の充実を図ります。

しつうがいを持つ子どもたちの学校修了後の過ごし方は学童保育がいいのか、自宅がいいのか、他に適切な方法があるのか保護者に判断してもらうのが大切です。学童保育の受け入れは、利用対象の要件が満たされているかで判断します。しつうがいを持つというところから拒否はしておりません。

東京湯沢町人会設立について

質問

「ふるさとの訛りなつかし停車場の人ごみの中にそれを聴きにいく」



東京上野の新潟県人会館

町長答弁

他の市町村でも県人会より同郷会のほうが盛大だと聞いています。湯沢町の応援として、湯沢にもあるといいと思いますので検討してまいります。

啄木の詩です。戦後、ふるさと湯沢を遠く離れて、東京やその周辺で働く湯沢町人が多くいます。この方々は、湯沢に対する熱い想いと強い郷愁を持っています。この人たちのネットワークを作り、情報を提供して各種事業への参加や協力「湯沢町へ住んでみませんかキャンペーン」への取り組みが出来ないか。自立する湯沢の協力者として、湯沢を愛し、湯沢で生まれ育った人たちの東京湯沢町人会設立の考えはないか伺います。